

トレーニング

<今回の学習内容>

第2回講義 使用ページ
問題8～15

問題編

問題 8 債権・債務

<解答P19>

基礎

— 7分 —

次の取引の仕訳を示しなさい。なお、商品売買は三分法で処理すること。

- (1) 商品500,000円を仕入れ、代金のうち100,000円は現金で支払い残額は掛とした。
- (2) 上記(1)の商品を600,000円で売り上げ、代金のうち200,000円は現金で受け取り、残額は掛とした。
- (3) 備品150,000円を購入し、代金は月末払いとした。
- (4) 土地（帳簿価額50,000円）を40,000円で売却し、代金は翌月10日に受け取ることにした。
- (5) 商品850,000円の注文をし、内金として200,000円を現金で支払った。
- (6) 上記(5)の商品が到着し、内金を除いた残額は掛とした。
- (7) 本日、給料日につき、給料12,000,000円（30人分）から従業員に対する立替金200,000円、社会保険料800,000円を差し引き現金で支払った。
- (8) 社員の出張につき、旅費交通費として20,000円を現金で仮払いした。
- (9) 上記(8)の出張した社員から現金50,000円の送金を受けたが、その内容が不明である。
- (10) 上記(8)の出張した社員が帰社し、上記(9)の送金は売買契約の手付金であることが判明した。
また、旅費交通費の精算を行い、不足額4,000円を現金で支払った。
- (11) A社は商品券100,000円を発行し、現金を受け取った。
- (12) A社は商品180,000円を販売し、A社発行の商品券100,000円を受け取り、残額は現金で受け取った。
- (13) B社は商品160,000円を販売し、他社発行の商品券80,000円を受け取り、残額は現金で受け取った。
- (14) B社は商品券の精算にあたり、他社発行の商品券80,000円を渡し、現金を受け取った。

【解答欄】

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(4)				
(5)				
(6)				
(7)				
(8)				
(9)				
(10)				
(11)				
(12)				
(13)				
(14)				

問題 9 割引等

<解答P21>

基礎

3分

次の取引について仕訳を示しなさい。

- (1) 買掛金24,000円の決済を行ったが、支払期日前に支払ったため、240円の割引を受け残額は現金で支払った。
- (2) 売掛金30,000円に対して1%の割引を行い、残額は現金で受け取った。
- (3) 商品40,000円をクレジット・カードにより販売した。なお、クレジット会社へのクレジット手数料は販売代金の1%であり、販売時に計上する。
- (4) 上記(3)のクレジット取引について、クレジット会社から手数料が差し引かれた手取額が当座預金口座に入金された。
- (5) 電子記録債権50,000円を割引くために、取引銀行を通じて電子債権記録機関に当該債権の譲渡記録の請求を行い、取引銀行から割引料400円を差し引いた手取金が当座預金口座に振り込まれた。

【解答欄】

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

<メ モ>

問題10 現金過不足(1)

<解答P21>

基礎

— 6分 —

問 1 次の一連の取引につき仕訳を示しなさい。

- (1) 手許現金の実際有高を調査したところ、帳簿残高より1,500千円少なかった。
- (2) 上記(1)の不一致原因を調べたところ、買掛金の支払額3,000千円が未記帳であったことが判明した。
- (3) また、売掛金の回収額1,000千円を誤って100千円と記帳していたことが判明した。
- (4) 決算日となったが、残額についてはその原因が不明である。

問 2 下記の【資料】に基づき、決算整理後残高試算表を示しなさい。

【資料1】

決算整理前残高試算表			(単位：千円)
現	金	1,380	
売	掛 金	5,550	

【資料2】決算整理事項

期末において、現金実査を行ったところ、金庫の中に次のものが保管されていた。

邦貨 1,200千円、他人振出小切手 200千円

帳簿残高と実際有高の差異について調べたところ、上記の他人振出小切手のうち50千円は、掛代金を回収した際に受け取ったものであるが、これに関する処理を行っていないことが判明した。なお、これ以外の原因は不明である。

【解答欄】

問 1 (単位：千円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

問 2

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

現	金	(	)	
売	掛	金	(	)
(	)	(	)	

問題11 現金過不足(2)

<解答P23>

基礎

- ㊦ 6分 -

下記の【資料】に基づいて、次の問に答えなさい。

問 1 決算整理に必要な修正仕訳を示しなさい。

問 2 翌期に繰越される現金の残高を示しなさい。

【資 料】

当社の決算整理前における現金の帳簿残高は8,000千円であり、期末時点の実際有高は7,360千円であった。差異について調査したところ以下の事実が判明した。

- (1) 営業費600千円を支払った際、当社では誤って金額を60千円とし、かつ貸借反対に記帳していた。
- (2) 従業員の出張に際し、出張費用として200千円を仮払金に計上していた。期末日に従業員が帰社し、残金40千円を受取ったが未処理であった。なお、出張費用は営業費勘定で処理する。
- (3) 原因不明分については、雑損失勘定または雑収入勘定で処理する。

【解答欄】

問 1

(単位：千円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

問 2

 千円

問題12 小口現金(1)

<解答P24>

基礎

— 3分 —

下記の【資料】に基づいて、次の問に答えなさい。

問1 (1) 支払報告時及び(2)小口現金補給時の仕訳を示しなさい。

問2 小口現金について、(1)当月末に補給する場合の小口現金勘定の次月繰越額及び(2)翌月初に補給する場合の小口現金勘定の次月繰越額を求めなさい。

【資料】

月末に小払係より当月分の小口現金支払報告が次のとおりあり、次月分の資金を補充するため小切手を振り出して交付した。なお、当社は小口現金について、定額資金前渡制度（定額設定高20,000円）を採用している。

通信交通費 9,700円、光熱費 5,800円、雑費 3,400円

【解答欄】

問1

(単位：円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

問2 (1) 円 (2) 円

<メ モ>

問題13 小口現金(2)・現金過不足(3)

<解答P25>

応用

- 6分 -

当社の以下の【資料】に基づいて次の問に答えなさい（事業年度は4月1日～3月31日）。

問1 仮払金に関する決算整理仕訳を示しなさい。

問2 決算整理後残高試算表を示しなさい。

【資料1】

決算整理前残高試算表

(単位：円)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
現 金 預 金	54,102,305	未 払 金	4,145,297
仮 払 金	400,000	雑 収 入	587,980
給 料 手 当	37,589,665		
交 際 費	15,200,587		
旅 費 交 通 費	6,598,780		
消 耗 品 費	245,120		
雑 損 失	43,210		

【資料2】

決算整理前残高試算表の仮払金勘定400,000円の内訳は以下のとおりである。

(1) 旅費の仮払金

当期の3月21日から3月29日の従業員の出張費用が未精算である。

仮払額 100,000円 発生額 120,000円

(2) 営業所に対する小口現金

小口現金として毎月1日に残高が300,000円となるように営業所に払い出しているが、当月の精算は、未済である。営業所からの報告によれば、3月分の小口現金使用高は以下のとおりであった。

取引先との懇親、食事代（交際費） 70,000円

事務用品の購入費（消耗品費） 25,000円

臨時人件費（給料手当） 120,000円

なお、小口現金の有高は、83,000円であった。小口現金の過不足について原因を追及したが不明であったので、雑損失又は雑収入（営業外損益）で処理する。

【解答欄】

問 1

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				

問 2

決算整理後残高試算表

(単位：円)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
現 金 預 金		未 払 金	
給 料 手 当		雑 収 入	
交 際 費			
旅 費 交 通 費			
消 耗 品 費			
雑 損 失			

問題14 振込手数料

<解答P26>

基礎

— 3分 —

次の取引について各社の仕訳を示しなさい。

- (1) A社はB社から売掛金100,000円の当座振込を受けた。なお、振込手数料600円はA社負担である。
- (2) C社はD社に対する買掛金300,000円を当座決済した。なお、振込手数料600円はC社負担である。

【解答欄】

(1) (単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
A 社				
B 社				

(2) (単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
C 社				
D 社				

問題15 当座借越

<解答P26>

基礎

- ㊶ 3分 -

次の一連の取引を仕訳しなさい。なお、当社の当座預金の残高は50,000円であるが、当社は銀行と当座借越契約を結んでおり、借越限度額は400,000円である。また、会計処理は二勘定制により処理することとする。

- (1) 得意先であるA社から売掛金180,000円の当座振込のあった旨、銀行から通知を受けた。
- (2) B社に対する買掛金300,000円を、小切手を振り出して支払った。
- (3) C社に商品150,000円を販売し、代金として同社振出しの小切手を受け取り、直ちに当座預金とした。

【解答欄】

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

確認 2

<解答P27>

確認

- ㊦ 15分 -

1 次の問に答えなさい。

問 1 次の一連の取引について、A社及びB社の仕訳を示しなさい。なお、商品売買については三分法により処理すること。

- (1) A社はB社に商品40,000円の注文を行い、代金のうち15,000円を現金で支払った。
- (2) A社はB社より、上記(1)の商品を仕入れ、代金の残額については掛とした。
- (3) A社は上記(2)の買掛金を現金により支払ったが、支払期日前に決済したため、500円の割引を受けた。

問 2 次の一連の取引について、仕訳を示しなさい。

- (1) 前期末に売却した土地の売却代金40,000円について、当期に全額を相手先振出の小切手で受け取った。
- (2) 従業員の給料95,000円の支払いにあたり、源泉所得税等3,200円を差し引いた残額を当座預金から支払った。
- (3) ① 従業員の出張にあたり、旅費交通費の概算額30,000円を現金で渡した。
② 出張中の従業員から現金80,000円の送金を受けたが、その内容は不明である。
③ 出張中の従業員が帰社し、上記②の送金は得意先からの売掛金の回収額であることが判明した。
④ 旅費交通費の精算を行った結果、出張費用が35,000円で確定したため不足額を現金で支払った。

【解答欄】

問 1

(単位：円)

		借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
A	(1)				
	(2)				
	(3)				
社	(1)				
	(2)				
	(3)				

問 2

(単位：円)

		借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)					
(2)					
(3)	①				
	②				
	③				
	④				

- 【2】 当社（事業年度 4 月 1 日～3 月 31 日）の下記の資料に基づき、【資料 3】決算整理後残高試算表（一部）の①～④に入る金額を答えなさい。

【資料 1】決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表（一部）					（単位：千円）			
現	金	預	金	41,025	仮	受	金	7,000
売		掛	金	450,000				
仮		払	金	100				
営		業	費	858,360				
雑		損	失	100				

【資料 2】決算整理事項等

- (1) 決算整理前残高試算表の仮払金は小口現金（毎月初に補給している。）に係るものであり、3 月分の支払報告（営業費の支払い 90 千円）が、未処理となっていた。
- (2) 決算整理前残高試算表の現金預金のうち、現金の帳簿残高は 5,000 千円であり、期末の実際有高（上記 (1) を除く。）は 4,000 千円であった。帳簿残高との差額のうち 880 千円は営業費の記帳もれであることが判明したが、その他の原因は不明であったため雑損失に振替える。
- (3) 出張中の従業員から 7,000 千円の当座振込があった際、内容が不明であったので仮受金として処理していたが、全額が得意先に対する売掛金の回収である旨が判明した。

【資料 3】決算整理後残高試算表（一部）

決算整理後残高試算表（一部）				（単位：千円）			
現	金	預	金	①			
売		掛	金	②			
営		業	費	③			
雑		損	失	④			

【解答欄】

（単位：千円）

①		②		③		④	
---	--	---	--	---	--	---	--

<メ モ>

解 答 編

④ 損益勘定

損				益			
3/31	仕	入	31,500	3/31	売	上	40,000
"	営	業	費	5,800			
"	支	払	利	息			
"	繰	越	利	益			
			2,550				
			40,000				40,000

⑤ 資産の残高勘定への振替

⑥ 負債及び純資産の残高勘定への振替

⑦ 残高勘定

残				高									
3/31	現	金	11,550	3/31	未	払	費	用	100				
〃	繰	越	商	品	3,000	〃	借	入	金	5,000			
				〃	資	本	金	6,000					
				〃	繰	越	利	益	剰	余	金	※	3,450
			14,550									14,550	

※ 後 T/B 900 + 当期純利益 2,550 = 3,450

問題 8 債権・債務

【解 答】

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	仕 入	500,000	現 金	100,000
			買 掛 金	400,000
(2)	現 金	200,000	売 上	600,000
	売 掛 金	400,000		
(3)	備 品	150,000	未 払 金	150,000
(4)	未 収 金	40,000	土 地	50,000
	土 地 売 却 損	10,000		

(単位:円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(5)	前 渡 金	200,000	現 金	200,000
(6)	仕 入	850,000	前 渡 金	200,000
			買 掛 金	650,000
(7)	給 料	12,000,000	立 替 金	200,000
			預 り 金	800,000
			現 金	11,000,000
(8)	仮 払 金	20,000	現 金	20,000
(9)	現 金	50,000	仮 受 金	50,000
(10)	仮 受 金	50,000	前 受 金	50,000
	旅 費 交 通 費	24,000	仮 払 金	20,000
			現 金	4,000
(11)	現 金	100,000	商 品 券	100,000
(12)	商 品 券	100,000	売 上	180,000
	現 金	80,000		
(13)	他 店 商 品 券	80,000	売 上	160,000
	現 金	80,000		
(14)	現 金	80,000	他 店 商 品 券	80,000

問題9 割引等

【解 答】

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	買 掛 金	24,000	現 金	23,760
			仕 入 割 引	240
(2)	現 金	29,700	売 掛 金	30,000
	売 上 割 引	300		
(3)	ク レ ジ ャ ッ ト 売 掛 金	39,600	売 上	40,000
	支 払 手 数 料	400		
(4)	当 座 預 金	39,600	ク レ ジ ャ ッ ト 売 掛 金	39,600
(5)	当 座 預 金	49,600	電 子 記 録 債 権	50,000
	電 子 記 録 債 権 売 却 損	400		

問題10 現金過不足(1)

【解 答】

問 1

(単位：千円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	現 金 過 不 足	1,500	現 金	1,500
(2)	買 掛 金	3,000	現 金 過 不 足	3,000
(3)	現 金 過 不 足	900	売 掛 金	900
(4)	現 金 過 不 足	600	雑 収 入	600

問 2

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

現	金	(	1,400	)		
売	掛	金	(	5,500	)	
(雑	損	失)	(	30	)	

【解答への道】(単位：千円)

問 1

現 金		現金過不足	
帳簿残高	(1) 現金過不足 1,500	(1) 現 金 1,500	(2) 買掛金 3,000
	実際有高	(3) 売掛金 900	
		(4) 雑収入 600	

問 2

(1) 原因判明分

現	金	50	/	売	掛	金	50
---	---	----	---	---	---	---	----

(2) 原因不明分

雑	損	失	30	/	現	金※	30
---	---	---	----	---	---	----	----

※ 帳簿残高：前 T/B 現金 1,380 + 原因判明分 50 = 1,430 △30
 実際有高：1,200 + 200 = 1,400 ←

現 金	
修正後帳簿残高	(2) 雑損失 30
1,430	前 T/B 1,380
	(1) 売掛金 50
	実際有高 1,400

または、次のように考えても良い。

現	金※ 1	20	/	売	掛	金※ 2	50
雑	損	失※ 3	30				

※ 1 帳簿残高：前 T/B 現金 1,380 +20
 実際有高：1,200 + 200 = 1,400 ←

※ 2 原因判明分 (売掛金回収記帳漏れ 50)

※ 3 原因不明分 (仕訳の差額)

問題11 現金過不足(2)

【解 答】

問 1

(単位：千円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	営 業 費	660	現 金	660
(2)	営 業 費	160	仮 払 金	200
	現 金	40		
(3)	雑 損 失	20	現 金	20

問 2

7,360 千円

【解答への道】(単位：千円)

問 1

(1) 誤記帳

① 適正な仕訳

営 業 費	600	/	現 金	600
-------	-----	---	-----	-----

② 当社が行った仕訳

現 金	60	/	営 業 費	60
-----	----	---	-------	----

③ 修正仕訳 (①－②)

営 業 費	660	/	現 金	660
-------	-----	---	-----	-----

(2) 出張精算

営 業 費※	160	/	仮 払 金	200
現 金	40			

※ 差額

(3) 過不足

雑 損 失	20	/	現 金※	20
-------	----	---	------	----

※ 帳簿残高：8,000－(1)660＋(2)40＝7,380

△20

実際有高：7,360 (問2) ←

問題12 小口現金(1)

【解 答】

問 1

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	通 信 交 通 費	9,700	小 口 現 金	18,900
	光 熱 費	5,800		
	雑 費	3,400		
(2)	小 口 現 金	18,900	当 座 預 金	18,900

問 2 (1) 円 (2) 円

【解答への道】(単位：円)

問 2

(2) 翌月初補給の場合における一連の流れは次のとおりである。

① 当月末報告時

通 信 交 通 費	9,700	小 口 現 金	18,900
光 熱 費	5,800		
雑 費	3,400		

② 次月繰越額

設定額 20,000－報告額 18,900＝

③ 翌月初補給時

小 口 現 金	18,900	当 座 預 金	18,900
---------	--------	---------	--------

問題13 小口現金(2)・現金過不足(3)

【解 答】

問 1

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	旅 費 交 通 費	120,000	仮 払 金	100,000
			未 払 金	20,000
(2)	交 際 費	70,000	仮 払 金	300,000
	消 耗 品 費	25,000		
	給 料 手 当	120,000		
	現 金 預 金	83,000		
	雑 損 失	2,000		

問 2

決算整理後残高試算表

(単位：円)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
現 金 預 金	54,185,305	未 払 金	4,165,297
給 料 手 当	37,709,665	雑 収 入	587,980
交 際 費	15,270,587		
旅 費 交 通 費	6,718,780		
消 耗 品 費	270,120		
雑 損 失	45,210		

【解答への道】

- (1) 旅費の発生額に対する不足額 20,000 円は未精算であるため、未払金勘定で処理する。
- 決算日であるため、仮払金勘定（小口現金）の残額は現金預金勘定に振り替える。
- 設定額が 300,000 円、使用した合計額が 215,000 円であるため、あるべき小口現金有高は 85,000 円となるが、実際有高が 83,000 円であるため、差額 2,000 円は雑損失となる。

問題14 振込手数料

【解 答】

(1) (単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
A	当 座 預 金	99,400	売 掛 金	100,000
社	支 払 手 数 料	600		
B	買 掛 金	100,000	当 座 預 金	100,000
社				

(2) (単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
C	買 掛 金	300,000	当 座 預 金	300,600
社	支 払 手 数 料	600		
D	当 座 預 金	300,000	売 掛 金	300,000
社				

問題15 当座借越

【解 答】

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	当 座 預 金	180,000	売 掛 金	180,000
(2)	買 掛 金	300,000	当 座 預 金	230,000
			当 座 借 越	70,000
(3)	当 座 借 越	70,000	売 上	150,000
	当 座 預 金	80,000		

【解答への道】(単位：円)

(2) 買掛金支払額300,000－当座預金残高(50,000＋180,000)＝借越70,000

確認 2

【解 答】

1 問 1

(単位：円)

		借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
A	(1)	前 渡 金	15,000	現 金	15,000
	(2)	仕 入	40,000	前 渡 金	15,000
				買 掛 金	25,000
社	(3)	買 掛 金	25,000	仕 入 割 引	500
				現 金	24,500
B	(1)	現 金	15,000	前 受 金	15,000
	(2)	前 受 金	15,000	売 上	40,000
		売 掛 金	25,000		
社	(3)	売 上 割 引	500	売 掛 金	25,000
		現 金	24,500		

※「前渡金」勘定は「前払金」勘定でも正解とする。

問 2

(単位：円)

		借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)		現 金	40,000	未 収 金	40,000
(2)		給 料 手 当	95,000	預 り 金	3,200
				当 座 預 金	91,800
(3)	①	仮 払 金	30,000	現 金	30,000
	②	現 金	80,000	仮 受 金	80,000
	③	仮 受 金	80,000	売 掛 金	80,000
	④	旅 費 交 通 費	35,000	仮 払 金	30,000
				現 金	5,000

2

(単位：千円)

①	40,035	②	443,000	③	859,330	④	220
---	--------	---	---------	---	---------	---	-----

【解答への道】

1 解答参照

2 (単位：千円)

1 小口現金の未処理

営	業	費	90	/	仮	払	金	100
現	金	預	金	10				

2 営業費の記帳漏れ

営	業	費	880	/	現	金	預	金	880
---	---	---	-----	---	---	---	---	---	-----

3 現金過不足

雑	損	失	120	/	現	金	預	金※	120
---	---	---	-----	---	---	---	---	----	-----

※ (1) 実際有高：4,000

(2) 帳簿残高：5,000－880＝4,120

(3) (1)－(2)＝△120

4 仮受金

(1) 当座振込時

現	金	預	金	7,000	/	仮	受	金	7,000
---	---	---	---	-------	---	---	---	---	-------

(2) 内容判明時

仮	受	金	7,000	/	売	掛	金	7,000
---	---	---	-------	---	---	---	---	-------